



「忙しくても…」

岩手県教職員組合 須藤 智織

何年か前、教室を飛び出す子どもに対応していた時のこと。「家ではとてもいい子」ということを聞いてはいたが、学校ではその対応に誰をあてるかと毎日計画を立てていた。

ある日、対応していた職員が「どうして？」ではなく「あなたはこんなにおうちで頑張っているんだよね。」と面と向かって聞いたところ、その子は涙をこぼし大きく頷いたという。ハッと思った。私も頭の片隅にはあったのだが、子どもに直接聞くことは考えていなかった。日々の対応に追われて子どもの心に寄り添うということを忘れていたのだった。

異動があった年、3月は土日もなく引継ぎの準備をし、4月5月も健康診断が目白押しのため毎日帰宅時間が遅く（仕事の要領も悪いことも手伝って）、かなり疲れていたとは思いますが自分では大丈夫と思っていた。

ある日の帰り、何も考えることなしにぼんやりと運転をしていたらラジオから懐かしい曲が流れてきて、でも曲名も歌手も忘れてしまっていた。サビの部分が流れてきた途端、ぼろぼろと

涙が溢れてきて前が見えなくなってしまう。「そうか。頑張りすぎていたんだ。」と自分のことは自分が一番わかっているようでわからなかったことに自分が一番驚いた。

運動会も近づいたある日、仕事仲間に「先生も大変ですね。張りつめていませんか？」と声をかけたところ、その人も目を潤ませた。頑張りすぎている人がここにもいた。と、ここまで張りつめていたのに声をかけてあげる余裕が自分にもなく、周りもいっぱいいっぱいなんだと思ってしまった。

今年ある1つの役職を無事終えることができたが、それも仲間の優しさや声かけが私の張りつめた心の糸を適度に緩めてくれたおかげだと思っている。

「忙しい」のはわかっているけれど、少しだけ自分と周りをみる時間を持つことを忘れないようにしたいと思っている。

